

(3) 挨拶

通商産業大臣

田村 元

代読 通商産業政務次官

倉田 寛之

皆様お早うございます。

只今、ご紹介を賜りました通商産業政務次官の倉田寛之でございます。本来でありますと、田村通商産業大臣がお伺いをしまして、ご挨拶を申し上げるところでございますが、国会開会中のこともございまして、代わりまして大臣からのご挨拶を私から申し上げたいと存じます。

「本日ここに「第五世代コンピュータ国際会議1988」が開催されるに当り、一言ご挨拶申し上げます。

まず、本国際会議の為に、世界中の多数の国々から遠路はるばる来日されました方々に対し心から歓迎の意を表したいと思っております。

また、本国際会議の開催に向けてご尽力されました、財団法人新世代コンピュータ技術開発機構をはじめとする関係者の皆様方に対しまして、心から敬意を表する次第であります。

さて、最近の世界の経済情勢を見ますと、全体としては堅調に推移しているものの、主要先進諸国間の対外不均衡問題、深刻化する途上国の累積債務問題など依然として大きな問題が存在しており、今日まで世界経済の発展を支えてきた自由貿易体制を安定的に維持していく上での懸念材料となっております。

世界経済の相互依存関係が益々広がりと深まりを見せている今日、GNPで見た経済規模が世界の1割を超えるに至った我が国と致しましては、「世界の中の日本」との認識のもと、こうした問題への積極的な取り組みを含め、その経済力・技術力を活用して世界経済の調和ある発展に貢献して参ることが緊要と存じております。

科学技術全般を取り巻く内外の情勢に目を合せますと、人類の共有財産であるべき科学技術の世界にも、保護主義的な傾向を有するナショナリズムの影が忍び寄ってきつつあることが懸念されます。

このような時にこそ、科学技術の最先端をいく国々が共に手を携えてテクノロジーバリズムを守り続ける決意を新たにすることが極めて重要だと考える次第であります。

我が国は1982年に、世界に先駆けて第五世代コンピュータ計画をスタートさせました。これは我が国が世界の計算機科学の進歩に貢献せんとするプロジェクトでございます。この為、皆様ご案内の通り、本日のシンポジウムの例を挙げるまでもなく、研究の推進に当たりましては、世界各国の研究機関との研究交流の確保を旨としているところであります。

お陰様を持ちまして、我が国の第五世代コンピュータ計画は順調な進展を見せており、本日ここに前期計画及び中期計画の合計約7年に及ぶ、研究開発の成果を広く内外に問うことが出来ますことは、誠に喜びに耐えません。

世界中から計算機科学の専門家が一同に会する、このシンポジウムが我が国の第五世代コンピュータ計画をはじめ、各国の類似プロジェクトの最新の研究成果を基にした貴重な研究交流の場になれば、これに勝る喜びはありません。

最後に本シンポジウムが初期の目的を達成し、世界の情報科学の進歩、ひいては世界経済の発展に資することを祈念致しまして、私のご挨拶と致します。」

昭和63年11月28日

通商産業大臣 田村 元

代読 通商産業政務次官 倉田 寛之

ありがとうございました。